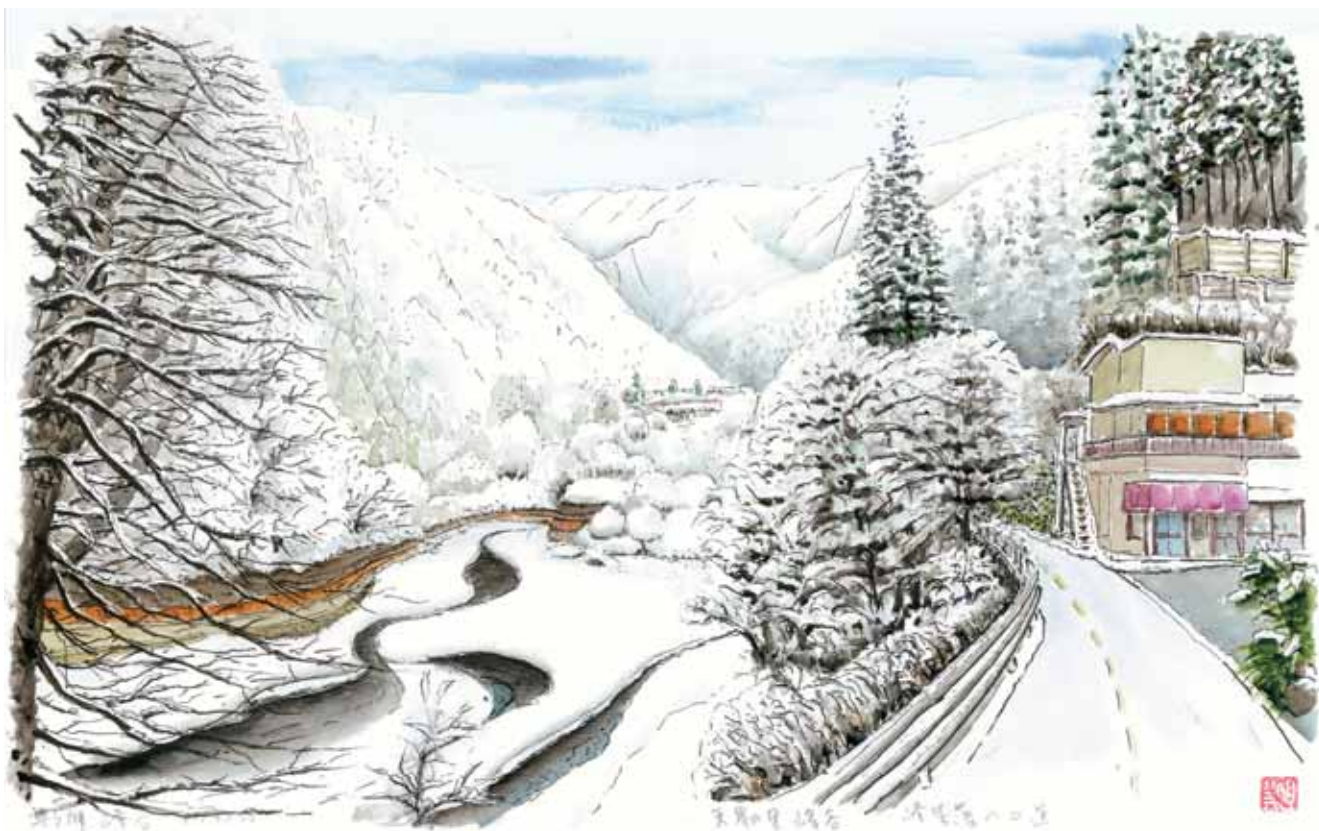


財団だより

第152号

2017.12

多摩川



多摩川源流 峰谷川

奥多摩湖北側の高丸山、鷹ノ巣山から流れる峰谷川の雪景色。小河内ダム建設で小河内村は湖底に沈みましたが唯一この峰村は残り、天界の里として「峰の獅子舞」など奥多摩の文化をそのまま残している集落です。

奥多摩湖北側湖畔を通る青梅街道を西下し赤い峰谷橋の手前を右折するとスケッチの道となります。

この先しばらく行くと、雲風呂というバス停があ

り急峻な崖の上に建つ楼門の縁の下をくぐって境内に入る普門寺という古刹があり、ゆったり時間が流れています。

画面中央奥が峰集落で、その奥の山は七ツ石へつながらる石尾根縦走路という素晴らしいハイキングコースです。

画と文
工博 野尻明美
日野市在住

目次

■ 巻頭言	2
■ 多摩川散歩	4
■ 多摩川に学ぶ	5
■ 私と多摩川	6

■ インフォメ・多摩川	8
■ 社会貢献学術賞贈呈式	13
■ 財団からのお知らせ	14

巻頭言

市民自治のための科学



明治大学農学部 教授
第9回とうきゅう環境財団
社会貢献学術賞受賞

倉本 宣

この度、社会貢献学術賞をいただくことになり、身に余る光栄です。

私は、科学の世界に足を踏み入れて、44年になります。社会に対する大きな貢献ができたわけではありませんが、常に、市民を意識して、市民と関係を持ちながら、主として多摩川流域で生きて研究を続けてきました。

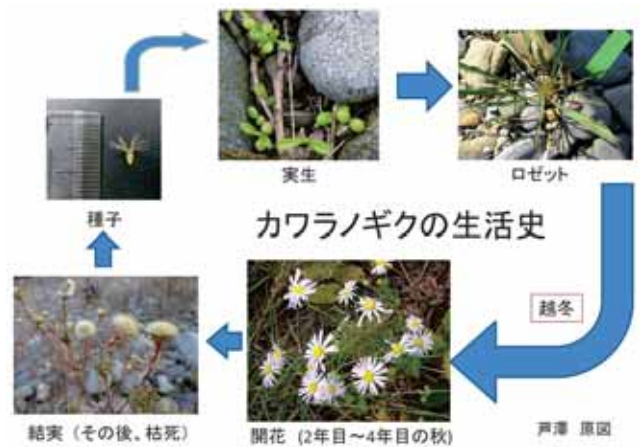
ここで、市民というのは主権者として「なすべきことをなす人々」のことです。高校生の時には、国立市公民館の講座から、市民について、市民自治について学びました。それ以来、大学、都庁、明治大学と、市民のために研究することと、現実の世界に役立つ研究を行うことをいつも意識してきました。

大学に入って考えてみると、現実の世界に役立つ生物学は生態学だと思えてきました。東大工学部の西村肇先生の研究室で環境問題の調査に参加させてもらいました。柏市の大堀川の遊水池の水質の24時間測定で、地域の方と話して、環境問題の解決における地域の市民の役割を意識しました。東大には生態学の研究室がないと言われた時代でしたが、実際には唯一の生態学の研究室である、理学部植物学教室の生態学研究室に進学しました。佐伯敏郎先生の下で、大学院生の時には多摩川の植生の多様性についての研究を行いました。

大学生の時代の市民としての活動としては、日本ナチュラリスト協会、子どものための自然観察会を和泉多摩川と高尾山東尾根で交互に毎月開催していました。

大学院生になって、板橋区高島平で観察会を担当し、都立赤塚公園とその周辺の四葉2丁目土地区画整理事業対象地で、ニリンソウを中心とする野草の保全活動を行いました。春植物という特異な生活史を持ったニリンソウの保全は、植物生態学の知見を活かして行うことができました。いたばし自然観察会や区の花ニリンソウを保存する会の市民や、東京都北部公園緑地事務所、東京都都市計画局、板橋区役所、赤塚公園管理所との協働や交渉がおもしろかったので、試験を受けて東京都の造園技術職員（一般行政職）として就職しました。

都庁の最初の職場は伊豆大島の大島公園事務所でした。天然記念物の大島海浜植物群落に本州の系統の苗木が補植された問題を職員の太田周さんから教えていただき、植栽によって植物が移動されることに伴って、植物の系統が攪乱されていることに気づき、データとともに発表しました。この研究は、15年ほど後になって、遺伝子レベルの攪乱の問題として広く認識されるようになりました。実務にも反映されて、例えば二子玉川ライズでは多摩川流域の系統で植栽が行われています。



カワラノギクの生活史

植物の保全に当たって、減少の原因になっている段階がどこかをみいだすことが重要です。カワラノギクは結実すると枯死することから新しい個体が定着しないと絶滅に向かうので、重要なのは実生の定着の段階です。

植物だけでなく、空間の学問の重要性を教えてくださいましたのは亀山章先生です。造園学会で大学院生の時の多摩川の研究を発表したところお手紙をいただき、それ以来、生きものとの共存をめざした造園学の研究を続けてきました。

都立公園最初の里山ボランティアとして桜ヶ丘公園雑木林ボランティアの立ち上げを担当しました。公園における市民の参画の基礎になった重要な活動です。

1989年にレッドデータブックがつけられるようになって、絶滅危惧種のモデルとしてカワラノギクの共同研究に着手しました。カワラノギクは多摩川の礫河原の象徴種で、1990年代の前半に急速に減少しました。20世紀には保全のための研究、減少が進んだ21世紀には再生のための研究と活動を行ってきました。

1996年に明治大学に移ったのを機に、カワラノギクプロジェクトとして、市民、行政（京浜河川事務所と福生市役所）、研究者（明治大学）の協働によりカワラノギクの再生活動を行っています。カワラノギクに近縁なウラギクの研究を始めたところ、在外研究で滞在したテムズ川流域には多数生育していることに気づきました。そこで、東京都では絶滅危惧ではあるものの分布域の広いウラギクの研究を、テムズ川と東京湾で行っています。



二子玉川ライズ ルーフガーデン

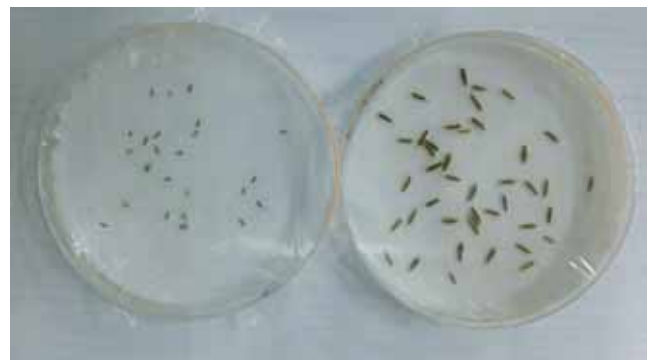
屋上に礫河原を再現して、カワラノギクなどを植栽し、生態学的な調査を継続しています。野外の個体群が全滅したときに、保険の意味を持つ個体群として位置づけることができるかもしれないと考えています。

明治大学に移ってからも公園の調査を続けています。生田緑地では生田緑地雑木林勉強会の活動を通じて植生管理計画の策定を実現しました。また、在外研究ではロンドンの保護区の保全ボランティアに自分になってみて参与観察をさせてもらいました。



葛西臨海公園の護岸とウラギク

東京湾の護岸はコンクリートで固められたハードなものです。土砂が堆積して、絶滅危惧種のウラギクが生育しています。土砂の堆積を促進して、護岸の塩生植物による緑化をめざして調査しています。



ウラギクの種子（左：日本産、右：イギリス産）

発芽実験をしてみると、しっかりしたイギリス産の種子は日本産に比べて発芽速度が遅く、発芽率も低いようです。同じウラギクとして扱われていますが、まったく同じ性質をもっているわけではありません。同じ種と扱えるのかどうかは今後の課題です。

私の科学活動は市民とのかかわりで成り立っているものです。この立場を生かして、これからはますます社会に貢献できる学問を構築していきたいと思っています。

多摩川散歩

多摩川源流大学から



多摩川源流大学事務局
NPO法人多摩源流こすげ事務局
東京農業大学非常勤講師

石坂 真悟

つながり生き続ける源流！

去る10月13日（金）に二子玉川の「iTSCOM STUDIO & HALL 二子玉川ライズ」を会場に『第8回源流サミット』が開催されました。

源流サミットは、全国源流の郷協議会に加盟する源流域の24町村と、「源流を守り、国土保全を推進する市町村連盟」13自治体により開催され、毎年各地の加盟自治体を会場に開催をしています。今年は都市に住む方々に源流の価値や魅力を伝えるため、東京での開催となりました。

（2018年は、鳥根県津和野町で開催されます。）

基調講演では、東京農業大学 宮林教授から「源流の現在—源流地域の調査報告—」というテーマで、現在源流域の市町村や、航空写真からみた小菅村の森林や農地の変遷、全国的な耕作放棄地の拡大などの様々な視点から源流域の現状の報告があり、その後は長野県根羽村村長による根羽村が実施している地域木材を地域内で使い切る（カスケード利用）「トータル林業」の事例報告、LOHASを日本に紹介した大和田順子氏による日本各地の都市と農村を繋いだ事例や日本農業遺産、森林などの資源を活かしたCSV（共通価値創造）事業の紹介、最後には雑誌ソトコト編集長の指出一正氏より、都市から見た源流の魅力をテーマに、自らが釣りを通してみた源流自治体の様子や感性についての報告がありました。「源流域をもっと発信し理解者、仲間を増やしていく」ことを目指したサミットの前身である全国源流シンポジウムが10年間開催され、そして源流サミットが8年間開催されてきました。

私が村へ移住した10年以上も前からその土地に住む方々や学識経験者の方から「源流」の大切さ豊かさが発信されてきましたが、これからは私たちの様な源流地域に魅せられた移住者や若者、ネットが一般的な1980年代以降に生まれたデジタルネイティブ世代も、「源流やそこでの暮らし・生活」について、より理解し体感し、そして伝え方を考え、実践し「源流域のもつ価値」を分かりやすく届けていくことが必要なのだと思いました。

■ NPO 法人多摩源流こすげのイベント情報

アニマルウォッチングツアー

【サル！ムササビ！のちシカ！！】



鹿と出会うかも

◆サルのテレメトリー（電波発信器）調査体験！遭遇率60%！

◆ムササビ観察！遭遇率90%！！

◆夜行性動物を探すナイトサファリ！

何かに出会う！遭遇率80%！！

冬になり木の葉が落ち切ると、源流の山々に隠れていた動物たちも見やすくなります。山奥の冬の木々も幻想的です。

サルが集落の側に来たり、ムササビが忙しく飛び回ったり、シカが求愛の鳴き声を山々に響かせたり。そんな小菅村の動物たちの生活を「覗き」に来ませんか？



鹿を仕掛ける



鹿皮を広げたところ

開催日

① 12月2日（土）

② 2018年3月17日（土）

料金：9,000円（夕食付き）

集合：午前11時 中央線大月駅

※詳細については、HPをご覧ください。

<http://npokosuge.jp/experience/>

その他にも、毎年キャンセル待ちになる大人気企画「猟師と一緒に山歩き」や「罾猟師体験」など冬ならではの企画がありますので、ぜひHPをご覧ください。

電話でお問い合わせの際は、「とうきゅう環境財団の財団だより多摩川の記事を見た」とお伝えください。

TEL：0428－87－7055

多摩川に学ぶ

自然体験が育む主体性



NPO法人せたがや水辺
デザインネットワーク

理事長 上原 幸子

多摩川の外来植物を知る

多摩川の外来生物の存在はメディアの影響もあり知る人も多くなりましたが、同様に外来植物も繁殖力が旺盛という理由から多摩川の河川敷で増え続けています。それがカワラサイコなど河原にもともとあった在来植物に影響を及ぼしていることは、一般的にはあまり知られていません。

昨年秋から、外来植物の研究者である東京都市大学・特別教授の小堀洋美先生の市民科学の研究活動に私たちの団体もごいっしょさせて頂き、ドローンとスマートフォンを利用した外来植物探しを市民参加型で継続的に行っています。



小型ドローンを飛ばして！

大勢で多摩川を歩いて見つけた外来植物をスマートフォンで撮影し、GPS機能で位置情報を地図に落とし、繁茂状況が見える化しています。

10月9日に東京都市大学二子玉川夢キャンパスの会場で行われた多摩川流域懇談会主催「第48回多摩川流域セミナー」では、今や流域全体の問題として広がった外来植物について、流域の自治体や地域の親子も参加していっしょに河川敷を歩き、直に見て触れて学ぶ機会となりました。



大人も子供も多摩川河川敷で外来植物探し

草木染めを楽しむという工夫

外来植物の駆除は、種子を拡散しないよう持ち出しが規制され、基本的にはその場で煮るか焼くか腐らせるなど死滅させる必要があります。その工夫のひとつが子どもたちと楽しみながら駆除できる草木染めです。毎年10月～11月の時期に、せたがや水辺の楽校原っぱのセイタカアワダチソウなど染料となる外来植物で草木染めを複数回行います。今年は、衣服に付きやすいことから俗名ひつつき虫と呼ばれる厄介者のコセンダングサを用いました。原っぱで遊ぶと全身がコセンダングサまみれになり痛い思いをすることも少なくありません。

今回、この草木染めイベントを企画し仕切ってくれたのは、将来染色の道に進みたいと勉強を始めた高校生でした。9月から採取しては煮詰める作業を繰り返して染め液を作り、豆乳で布にタンパク質を加えて染まりやすくするなど下準備をし、イベント当日は絞り染めを小さい子どもたちに教えていました。彼女は赤ちゃんの頃から多摩川でたくさん遊んで育ちました。地域の自主保育サークルがきっかけで多摩川での遊び場活動をいっしょにするようになり、小さい頃からの自然体験の記憶が将来の選択肢へとつながりました。それは周囲の大人にとって嬉しいことでもあり、アドバイスや応援をもらいながらの草木染めとなりました。

子どもは純粹に楽しいと感じたこと、覚えたことを今度は自分でやってみたいと考えます。大人が考えたイベントの参加者で終わらせず子どもが主体的に考えたことを後押しする環境づくりこそ、循環型の社会のために必要なのです。



大量の外来植物が染料に



幼稚園児の頃の草木染め



小さい頃から知っている多摩川博士がアドバイス



完成した草木染め

私と多摩川

化石が語る地球の歴史



GeoWonder 企画
むさしの化石塾代表

福嶋 徹

多摩川流域の河床には、源流から中流域を経て河口入り江のある下流域まで、様々な自然景観が見られます。特に多摩川中流域の河床面には、およそ250万年前から100万年前に形成された鮮新世末から前期更新世の第四紀層が広がります。これらは上総層群^{かずきそうぐん}という海成層を主体とした未固結で柔らかい地層からなります。

そこからは、当時の海底に生息していた甲殻類や多毛類(ゴカイなどの仲間)などの現地性(その生物が、その場所に生きていたこと)の証拠を示す巣穴化石が、砂泥層に豊富に残されています。砂層からは貝化石が多産し、クジラやアシカなどの海棲哺乳類や、サメの歯や魚類化石など、様々な動物化石が発見されます。これらの化石から豊かな海洋環境が推定できます。



シカの足跡化石



ゾウの足跡化石



小山田層のヒメシラトリガイ

また扇状地堆積物や、沖積低地の陸域の堆積物の流入も見られるので、シカやアケボノゾウなどの陸棲動物や、鳥類化石もみつかります。現地性を示す証拠としては、化石樹林の存在に加えて、木の葉や木質部の堅果など様々な大型植物化石も発見されます。植物化石では、日本では絶滅してしまった種類のメタセコイア、オオバタグルミなど、特徴的な大型植物化石と一緒に、ゾウやシカの足跡化石が豊富に見つかります。現在の日本には生息していないゾウなどの動物をはじめとした草食動物の楽園があったと想像されます。このように多摩川の河床に見つかる豊かな化石相の証拠から、関東平野の地下に眠る上総層群という地層には、パレオ(古代)・シーワールドと、パレオ・サファリとも言うべき古生物が生息する世界が広がっていた古環境の様子が見えてきました。

実は、化石は道具を使わなくても見つけることができます。河川の営力によって河床が自然に削り込まれていく過程で、ちょうどそのタイミングで風化面に露出した化石を、付近を散歩した人が発見する場合があります。このため専門の研究者よりも一般の市民の方が偶然見つける可能性が高いのです。したがって多摩川では、これからも素敵な化石の発見が続くことでしょう。次に素敵な化石を発見するのは、あなたかもしれません。

多摩川を上流に向かって地層観察をしていくと、どんどん地質時代が古くなっていくことがわかります。このような貴重な地質情報を提供する多摩川は、私にとってもフィールド・サイエンスを学ぶ原点の場所となりました。

私のライフワークは、発見された化石標本の調査研究です。研究論文の発表や博物館への寄贈を行い、科学研究成果の社会還元をおこなっています。

もう一つの私の事業は、化石の調べ学習による環境教育・地域自然史の普及活動の推進です。多摩川が豊かな地域自然史の教材を提供する貴重な場所であること。第四紀層の地質時代の古生物の謎を紐解く調べ学習ができる格好の場所であること。この事実、私自身が魅了されてしまったことが原動力となっています。多摩川の地域自然史の魅力を、もっと多くの皆さまに体感して頂きたい。その願いから誕生したのが、2005年にスタートした生涯学習教室「むさしの化石塾」でした。その内容は、多摩川で見つかる第四紀層の化石を学習コンテンツのツールとして、古環境復元や古生態の謎解きの調べ学習をおこなう生涯学習教室事業です。毎月1回の室内調べ学習をベースに、不定期で多摩川での野外体験会を行います。



野外体験



野外調べ学習

当塾では、教育活動と研究活動という2つの柱で事業を推進しています。貴重な化石は、自然史博物館に寄贈する仕組みを構築し、「第四紀学」の市民普及活動を、民間の任意団体として発信しています。当塾の基本理念としては、多摩川を野外拠点として、

①地球科学を体感する生涯学習教室、②センス・オブ・ワンダー（神秘さや不思議さに目を見はる感性）を育む環境教育、③セレンディピティ（偶然をきっかけに思わぬものを発見する能力）を引き出す偶発力の体得を目指します。加えて④研究成果の学術発表とその社会還元、⑤教材・研究用化石標本の蓄積と収蔵といった5つの活動目標を掲げています。

参加希望者は、未就学児童の方からシニアまで、なたでも参加できます。また当塾で研究収蔵している多摩川で発見された化石標本は、下記のメールから事前予約を頂ければ見学可能です。是非お問い合わせください。

塾生募集だけでなく、シニア・主婦向けの「地域自然史」生涯学習プログラム、「多摩川の化石から学ぶ地域自然史学」の定期講義受講生も募集しています。

イベント参加・入塾希望者は是非お問い合わせください。

Geo Wonder 企画 むさしの化石塾

〒208-0003 武蔵村山市中央3-20-7 MKJ 事務所

連絡先 Mail アドレス : geo@extra.ocn.ne.jp

インフォメ／多摩川

多摩川流域他の各種団体等の12月から2018年3月に開催される環境活動に関する主な行事・イベント情報を紹介いたします。

☆ 美しい多摩川フォーラム

第10回多摩川子ども環境シンポジウムを開催

開催日 12月9日(土) 14時～16時半

開催場所 フォレスト・イン昭和館／昭島市

■ 問合せ先

美しい多摩川フォーラム事務局(青梅信用金庫 地域貢献部内)

担当: 及川／黒米／木村

TEL: 0428-24-5632 FAX: 0428-24-4650

E-mail: forum@tama-river.jp

URL: <http://tama-river.jp>

☆ みずとみどり研究会

第15回 身近な水環境の全国一斉調査のお知らせ

日時 2018年6月3日(日) ※世界環境デー(毎年6月5日)

測定項目 気温、水温、COD、その他(任意)

測定方法 取扱説明書にもとづき、調査キットで測定

(参加申込者に2018年4月末～5月頃に配布予定)

同封の申し込み用紙に必要事項をご記入の上、下記の事務局(みずとみどり研究会)に、

2018年3月10日(土)までに必ずご送付下さい。

なお、ご記入いただいた個人情報は今回の調査に関する連絡以外に、ご本人の許可なく使用いたしません。

申込受付 参加申込された団体はホームページで公表させていただきます。

■ 申込み・問合せ先

事務局 全国水環境マップ実行委員会 みずとみどり研究会気付

〒185-0021 東京都国分寺市南町2-1-28 飯塚ビル202

TEL/FAX: 042-327-3169 E-mail: mizutomidoriken@ybb.ne.jp

URL: <http://www.japan-mizumap.org>

第6回多摩川流域歴史セミナーの開催のお知らせ

日 時： 2018年1月28日（日）

午 前 現地見学会

午 後 セミナー

場 所： 現地見学会は西八王子駅周辺、午後のセミナーは八王子駅周辺を予定（詳細が決まりましたらフェイスブック等でお知らせします。）

セミナー講師 岩橋清美氏（国文学研究資料館 特任准教授）

内 容： 「調布玉川惣画図」にみる多摩川の名所

詳細：国土交通省京浜河川事務所ホームページ

http://www.ktr.mlit.go.jp/keihin/keihin_index116.html

または多摩川流域懇談会公式 Facebook <https://www.facebook.com/tamaryukon>

（Facebookは「多摩川流域懇談会」で検索）

主 催：多摩川流域懇談会（市民（団体）・多摩川流域の自治体・河川管理者など）

第50回多摩川流域セミナー

日 時： 2018年2月17日（土）

場 所： 大師河原干潟館

内 容： 大師河原干潟館（大師河原水防センター）10周年を記念して、防災等をテーマにした多摩川まつりを企画中です。

詳細が決まりましたらフェイスブック等でお知らせします。

■申込み・問合せ先

多摩川流域懇談会事務局 みずとみどり研究会

連絡先：TEL／FAX 042－327－3169

E-MAIL mizutomidoriken@ybb.ne.jp

☆ NPO 法人 せたがや水辺デザインネットワーク

多摩川子どもシンポジウム in 二子玉川 2017

2017年度に学校や流域の団体が行った多摩川での活動の発表会です。

日 時： 2018年2月18日（日）

場 所： 東京都市大学二子玉川夢キャンパス

U R L： <http://setagaya-mizubedesign.org/>

☆ 一般財団法人 世田谷トラストまちづくり

○早春のバードウォッチング ～多摩川・兵庫島公園周辺

◆ 2月24日(土) 午前9時30分～11時30分 ※要申込

○世田谷トラストまちづくりビジターセンター ～世田谷区成城4-29-1(野川沿い)

※開館時間： 午前9時～午後5時 / 休館日： 月・火曜および年末年始(12/29-1/3)

* 「身近な自然と触れ合うミニイベント」 ※要申込(12月15日(金)から)/tel.03-3789-6111

◆ 1月20日(土) 「森の落ち葉のランプシェードづくり」 午後1時30分～3時30分

◆ 2月17日(土) 「木の実のおひなさまづくり」 午後1時30分～3時

◆ 3月17日(土) 「スマホでネイチャー PHOTO & 木の PHOTO スタンド作り」 午後1時30分～3時

* 「みどりの上映会」毎週土曜日 午前10時～正午、午後1時30分～3時30分 随時・申込不要

■ 申込・問い合わせ先

(一財) 世田谷トラストまちづくり トラストみどり課

TEL 03-6407-3311 FAX 03-6407-3319

財団 HP <http://www.setagayatm.or.jp/>

☆ 川崎市域水辺の楽校

川崎市域水辺の楽校開催予定

かわさき水辺の楽校	だいし水辺の楽校	とどろき水辺の楽校
12月16日(土) 多摩区の外遊びに協力 (生田小学校校庭)	12月16日(土) ツル編み教室 クズツルのエコクラフト	12月23日(土/祝) 恒例野鳥観察 「多摩川の野鳥・渡り鳥の観察」
1月8日(月/祝) 多摩川凧揚げ大会 (多摩区と合同)	1月20日(土) 凧づくり教室 「多摩川河口に吹く風を知る」	1月14日(日) 多摩川凧揚げ&雑煮大会 「凧揚げの後はお雑煮を おなか一杯食べて温まろう！」
2月25日(日) 川崎市域水辺の楽校合同発表会	2月25日(日) 川崎市域水辺の楽校合同発表会	2月25日(日) 川崎市域水辺の楽校合同発表会

■ 申込・問い合わせ先

NPO 法人 とどろき水辺

理事・事務局 鈴木眞智子

〒212-0004 川崎市幸区小向西町三丁目64

電話 044-201-1493 携帯 090-5814-9604 Eメール: info@todoroki.org

<http://www.todoroki.org>

☆ むさしの化石塾

●室内作業日程「調べ学習・室内ワークショップ」参加費 2000 円

- ・ 12/24 (日) 多摩川の植物種実化石の分類学習
- ・ 1/21 (日) 多摩川産化石の調べ学習 (1)
- ・ 2/18 (日) 多摩川産化石の調べ学習 (2)
- ・ 3/18 (日) 多摩川産化石の調べ学習 (3)

※要：事前申込

※場所：〒208-0003 武蔵村山市中央3-20-7 むさしの化石塾

バス停武蔵村山市役所下車徒歩3分



室内作業の様子

●野外イベント日程 (オプション) 参加費 3000 円

(参加申込み者に別途ご案内いたします)

※野外体験参加希望者は、むさしの化石塾のPC

アドレス：geo@extra.ocn.ne.jp まで、

「野外体験会日程案内希望」と件名を明記頂き、

お名前、性別、年齢、住所連絡先、電話番号、緊急連絡先、web アドレス等を記入頂きご返信下さい。



野外イベントの様子

■むさしの化石館「Pコレクション」一般見学受付中 (見学科:1000 円)

多摩川産出 200 万年前のアケボノゾウ化石 (博物館収蔵まで特別公開中)

多摩川の化石標本展 同時開催中 (※ほかの地域の化石も内覧可。)

多摩川の地域自然史のビジターセンターとしてもご利用ください。

※お手数をお掛けいたしますが、公開日は原則土日のみの事前予約に限定されます。



公開アケボノゾウのコメント

◎申し込み方法

お手数ですが、上記の催し日程の参加、いずれにつきましても、お問い合わせの際は、申し込み、及び入塾希望者は下記のメールアドレスから、ご連絡をお願い致します。お手紙でも OK です。FAX でのご連絡の方は 042-567-1095 までどうぞ。

※ Geo@extra.ocn.ne.jp (24時間)、FAX 042-567-1095 (受付 10時-4時)

メールにて住所・氏名・学年・連絡先を明記の上、ご送信願います

Geo Wonder 企画 むさしの化石塾

〒208-0003 東京都武蔵村山市中央3-20-7 MKJ 事務所

むさしの化石塾 代表 福嶋 徹

☆ 多摩川大学ふれあい移動水族館

12月 2日 土	多摩川環境学習会	多摩区内の多摩川	11時～12時30分	参加申し込み制
12月 3日 日	おさかなポスト学習会	多摩区稲田公園内魚の家おさかなポスト	11時～12時30分	申し込み制
	ふれあい水族館	多摩区稲田公園内魚の家おさかなポスト	10時～16時	参加自由
12月 9日 土	多摩川環境学習会	多摩区内の多摩川	11時～12時30分	参加申し込み制
12月 10日 日	おさかなポスト学習会	多摩区稲田公園内魚の家おさかなポスト	11時～12時30分	申し込み制
	ふれあい水族館	多摩区稲田公園内魚の家おさかなポスト	10時～16時	参加自由
12月 16日 土	多摩川環境学習会	多摩区内の多摩川	11時～12時30分	参加申し込み制
12月 17日 日	おさかなポスト学習会	多摩区稲田公園内魚の家おさかなポスト	11時～12時30分	申し込み制
	ふれあい水族館	多摩区稲田公園内魚の家おさかなポスト	10時～16時	参加自由
12月 23日 土	多摩川環境学習会	多摩区内の多摩川	11時～12時30分	参加申し込み制
12月 24日 日	おさかなポスト学習会	多摩区稲田公園内魚の家おさかなポスト	11時～12時30分	申し込み制
	ふれあい水族館	多摩区稲田公園内魚の家おさかなポスト	10時～16時	参加自由
12月 29日 金	おもちつきお楽しみ会	多摩区生田 おさかなポスト事務所	9時～16時	参加申し込み制
12月 31日 日	多摩川環境学習会 多摩川カウントダウン	多摩川河口	23時～0時30分	参加申し込み制

★上記の詳細、お問い合わせ、参加申し込みは下記へご連絡ください。

★ふれあい移動水族館・出前授業・講演会などのご依頼は下記へお問い合わせ下さい。

■ 申込・問合せ先

mlc54407@nifty.com 電話 090 - 3209 - 1390

NPO法人おさかなポストの会 ふれあい移動水族館

川崎市多摩区生田7-25-1 電話 044 - 933 - 3220 携帯 090 - 3209 - 1390

2017年度

第9回 とうきゅう環境財団 社会貢献学術賞贈呈式が
開催されました。

本年度の受賞者は、明治大学農学部教授 倉本 宣 氏 です。

当財団は、多摩川およびその流域の環境改善を図ることを目的に1974年8月に設立され、1975年から毎年多摩川とその流域の環境浄化・保全のための調査・試験研究や活動に対し助成事業を続けております。これに加え、2009年8月、財団設立35周年記念事業として、我が国の学術振興に資することを目的に「社会貢献学術賞」を制定し贈呈事業を開始いたしました。今年度は、11月20日（月）にセルリアンタワー東急ホテルにて「第9回とうきゅう環境財団社会貢献学術賞贈呈式」を開催いたしました。

今回受賞された倉本 宣先生は、これまで一貫して「市民のための科学」を基本として活動され、市民、行政、研究者の協働による植生管理などに精力的に取り組んでこられました。

本賞は、日本の環境分野（環境保全、環境科学、環境技術など）において学術的、社会的に特に顕著な業績（調査、研究、環境科学技術の発展、行政施策への推進、実践活動など）を挙げた研究者を顕彰するものであり、倉本 宣氏 の実績は、まさに本賞の趣旨に合致するものと考えております。



贈呈式で講演をされる倉本 宣氏



講演後は、会場を移し懇親会がスタート。出席者の皆様の歓談が弾みました。倉本 宣氏の受賞を祝いながら金盞香咲く美しい季節を共有できました事に感謝致します。

ご出席の皆様ありがとうございました。



晩秋の景色をバックに和やかな懇親会

財団からのお知らせ

助成研究募集のご案内

多摩川およびその流域の環境浄化に関する 基礎研究、応用研究、環境改善計画のための研究・活動の募集

公益財団法人とうきゅう環境財団（理事長 鈴木 克久）は、1975年より、多摩川およびその流域の環境浄化の促進や自然環境の保全などに必要な調査や試験研究を毎年公募してきています。その結果、これ迄に1,228件（学術研究766件、一般研究462件、14億48百万円）の調査・試験研究のお手伝いをさせていただきました。

2018年4月からの助成についても下記の通り、従来と同様、意欲的な調査や試験研究を募集致します。

応募資格

学識経験者の方はもちろん、一般の方でも下記目的にあった研究で、意欲のある方であれば、どなたでもご応募いただけます。

助成研究対象テーマ

多摩川およびその流域の環境浄化に関する基礎研究、応用研究、環境改善計画のための研究

- ①産業活動または住生活と多摩川およびその流域との関係に関する調査および試験研究
- ②排水・廃棄物等による多摩川の汚染の防除に関する調査および試験研究
- ③多摩川およびその流域における水の利用に関する調査、試験研究
- ④多摩川を取り巻く自然環境の保全、回復に関する調査、試験研究
- ⑤シンポジウム、音楽会あるいは出版等による環境啓発活動や、歴史的な遺産あるいは社会システムの維持保全・回復運動等、多摩川およびその流域における環境保全や文化の創造に広く寄与するもの

応募方法

当財団所定の申請書に必要事項を記入、捺印の上、財団宛ご提出ください。

（申請書用紙は、公式ウェブサイトからダウンロードできます。）手書きでの申請書はご遠慮ください。

助成の決定

2018年3月に開催予定の当財団選考委員会にて選考のうえ、理事会に諮って最終的に決定します。

応募期間 2017年9月1日（金）～2018年1月19日（金）

応募締切日 2018年1月19日（金）消印有効

応募にあたっての注意事項

- ①ご応募にあたっては、当財団の定める「調査・試験研究助成に関する基準と個人情報保護に関する規程」を必ずお読み下さい。（同規程は、公式ウェブサイトに掲載しています。）
- ②過年度に不採用となった調査や研究の再応募は受付けておりませんので、同一の調査・試験研究課題で再応募される場合は、前回のものと調査や試験研究の内容の違いがよく判るよう工夫して、申請書をご作成下さい。

助成研究の種別と条件

研究の種別	学術研究	一般研究
研究の区別	環境問題改善のための調査や試験研究で、専門性が高く、その分野の学識経験を必要とするもの。	環境問題改善のための調査や試験研究で、一般の市民が、特別な学識経験を必要とせず取り組めるもの。
	(財団の公式ウェブサイトでは過去の研究事例をご参照下さい。)	
1件当たりの助成金総額 の上限額	400万円	100万円
単年度の助成金上限額	200万円	100万円
研究期間	最長2ヶ年	最長2ヶ年
助成対象費目 (1) 器具備品費 (2) 消耗品費 (3) 旅費 (4) 謝金 (5) その他	<p>直接研究に使用する器具備品で1個、又は一式10万円以上の固定資産調査や試験研究に用いる各種材料、部品、薬品等。</p> <p>調査や試験研究のための交通費、宿泊費等。</p> <p>調査や試験研究のために臨時に雇った人の謝金等。</p> <p>器機・設備などの賃借料、通信費、その他。</p>	
<p>一般研究については、従来からの調査・試験研究に加えて、シンポジウム、音楽会あるいは出版等による環境啓発活動や、歴史的な遺産あるいは社会システムの維持保全・回復運動等、多摩川およびその流域における環境保全や文化の創造に広く寄与すると思われるものも選考の対象といたしますので、奮ってご応募下さい。</p>		

最新情報は、当財団の公式ウェブサイトでご確認下さい。 <http://www.tokyuenv.or.jp/> 以上

編集後記

ここ一、二か月は、多摩川沿いのいろんな所を歩きました。サイクリングロード、芝生のグラウンド、沿岸のショッピングセンターの屋上、収穫の終わった梨畑、化石の取れる柔らかい土の河原、そして水にじかにさわられる川岸（水面を飛び跳ねる魚をたくさん見ました）。近頃は多摩川を眺めるたびに「ふるさとに帰ってきた」という思いにとらわれます。この豊かな自然を守るために、皆様とともに川の流れのように、たゆまず歩んでいきたいと思ひます。(Z)

2018年度の助成研究募集が始まりました。各大学、図書館、情報発信センターやビジターセンター、カワセミハウス他自治体の施設に告知のお願いで訪問させて頂きました。

暖かいおもてなしとご教示を受け感動しております。これからもどうぞよろしくお願ひ致します。(M)

● 発 行 日

2017年12月1日

● 編集兼発行

公益財団法人とうきゅう環境財団

〒150-0002

渋谷区渋谷1-16-14

(渋谷地下鉄ビル5F)

TEL 03-3400-9142

FAX 03-3400-9141

公式ウェブサイト

<http://www.tokyuenv.or.jp/>